

奈良

NARA

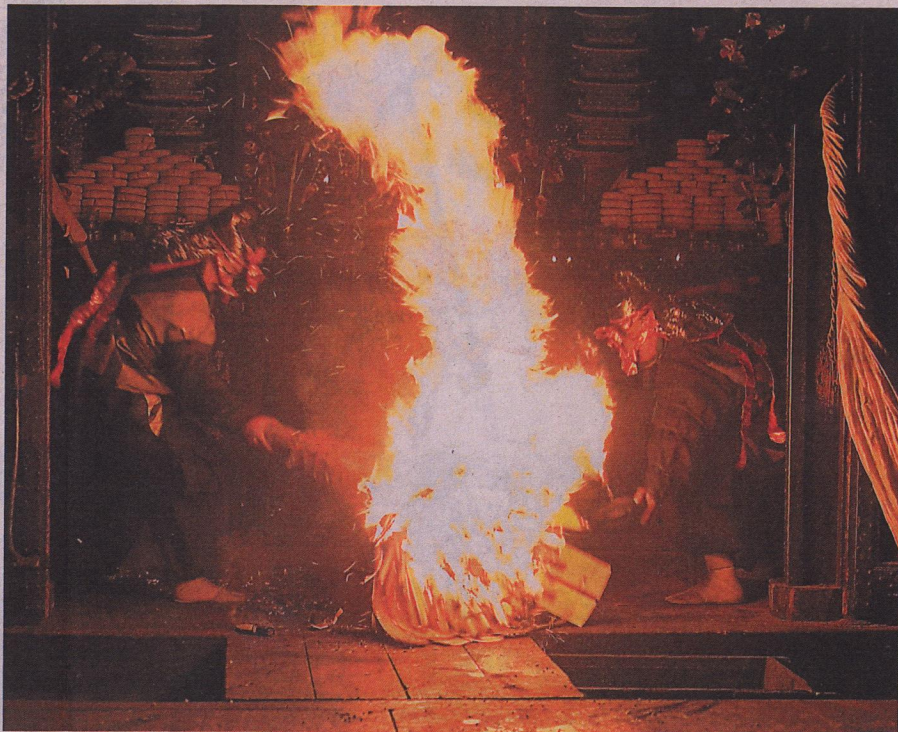
すし専門店

東 鮓
あづまし
すし株式会社 東 鮓
おしくま店ならやま大通り神功5丁目交差点
西へ約500m南側

TEL.0742-40-3388

奈良総局
〒630-8538
奈良市三条大路1-9-17
☎0742(36)6331
生駒支局0743(75)3081
橿原支局0744(22)2082
吉野支局0747(52)2515
大和高田支局
0745(52)2047王寺支局0745(31)0091
購読・配達のご用は
奈良 (23) 2650

火よ 水よ 瞬きの時



火天(左)が松明を突き出すと、水天が水をまくように跳びはねた

春と呼べ
東大寺お水取り

最後飾る 達陀

修二会(お水取り)の最後を飾るのは、12〜14日の法要にある達陀。最も躍動的な行事だが、その由来や意味はわからないことが多い。間違いないのは、火に特別の思いが込められていることだ。

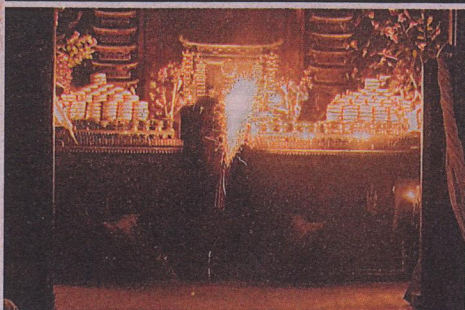
内陣と礼堂をしきる白い戸帳が巻き上げられると、金襴の帽子をかぶった練行衆が一人またひとり、腰をかがめて内陣を走りすぎる。あるものは正面から礼堂にむかって水をまき、あるものは両足を開いて飛び上がり炭の火の粉をまき散らした。呪力を持つ八つの品物をそれぞれの手にする八天の役。神になりきったかのようだ。

直後、長さ2メートルの達陀松明を抱えた火天

と、清めの水を入れる洒水器を持つ水天が須弥壇の回りを1周して正面へ走り出た。火天が松明を礼堂へ突き出し、それを制するように水天が跳びはねる。鈴やほら貝の音に合わせた、火と水の戦いだ。

「対決」が10回ほど続くと、松明は内陣正面に立てられ、すぐさま礼堂に投げ倒された。火の粉が飛び散り、暗かった堂内が一瞬に明るくなる。松明は間髪おかずに再び立てられ、内陣へと消えた。

そこまで約10分。14日未明、火の魔力に参拜者が酔った。堂外は風もなく暖かい。炎と呼ばれて、確かに春がやってきた。(おわり)



①炭の火の粉をまき散らす八天
②松明が礼堂に倒され、周囲が真っ赤になった。いずれも14日午前1時過ぎ、奈良市の東大寺二月堂